

# その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.048

## 田中 康夫



たなかやすお ● '56年生まれ。衆議院議員、新党日本代表、作家。  
'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選、  
'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選。【公式ブ  
ログ】 [www.nippon-dream.com/](http://www.nippon-dream.com/)



## TPP参加で、日本の製造業は 中国市場という生命線を失う

### 今週の逸品



### 北京炙鴨 半羽4515円 一羽7980円

6800円の晚餐でも十二分に北京炙鴨を堪能可能。午膳は3種類の味わいで北京炙鴨が愉しめる同内容の鴨三吃コースが前菜5種盛り合わせ、野菜と家鴨スープ、海老チリソース、紹掛け手打ち麵、食後で6300円。

平日には1575円の定食も用意。百戦錬磨の外交交渉を繰り広げる中国を把握分析し得るか否かは定かならねど、郷里から両親を始めとする一族郎党が上京の折には会食の場として選択肢の1つ。新宿店も存在。

【全席喫】東京都中央区銀座5-8-17 銀座ワールドタウンビル6F ☎03-5568-8668 営平日11:30~15:00(LO14:30)  
17:00~23:00(LO22:00) 土日祝11:30~22:00(LO21:00) 無休 <http://www.zenshutoku.com/>

illustration by Hajime Anzai

中国人民銀行の発表を素直に信じるなら、昨年末の中国の外貨準備高は前年比11.7%増の3兆1811億ドル(244兆円)。日本を倍以上も上回り、世界一です。1995年には対米輸出の僅か6分の1でしかなかった日本の対中輸出も、2008年には逆転。同じく1995年に対日輸出の6分の1だった米国の対中輸出は、既に2006年に金額が逆転。その差は拡大し続け、昨年は対日対中が2.3の比率(600億ドル対900億ドル)に達しました。

その中国を、日本のTPP参加で同じ土俵に誘い込む、と夢見る夢子ちゃん、な妄言を吐く向きが居ます。笑止千万。インチキナ訴訟で大打撃の略号だと僕も揶揄するISD条項(投資家保護条項)を含むTPPに中国が参加する苦も無い、と経済学者の畏兎・野口悠紀雄氏は看破します。更にTPP参加は日本の製造業に深刻な悪影響を及ぼしてしまうのだと先週末、個人情報「漏洩」「転売」が問題視される米国グーグル社が、その非を棚に上げ、中国製の国

内「検閲」続行で損害を被った、と提訴したなら、「米国」の代弁者たるUNCITRAL(国際連合国際商取引法委員会)は「仰せの通り」と牽強付会な裁定を下すでしょう。この一点を以ても、中国のTPP参加は有り得ません。寧ろ、TPP包囲網への対抗手段で中国は、EUとFTAを締結する可能性が極めて高いのです。結果、日本の製造業は崩壊します。何故って、自動車等を中国で生産する為の部品や機械、即ち中間財の輸出で日本は独逸と張り合っ

いるのです。その競争相手がFTA締結で関税ゼロ、加えてユーロ安の恩恵も受けて中国市場を席巻したなら、日本は中国市場という輸出の生命線を失います。「TPPは日本の製造業にとって自殺行為。貿易自由化協定ならぬ貿易阻害協定。何故、経団連がそれを考えないのか、私は不思議で仕方がない。経済産業省の人も一体、何を考えているのでしょうか。彼らの頭は狂っているとしたか思えない。本当は今、中国政府が何を考えているか、懸命に情報収集しなければいけない時なんだ。国家存亡の危機ですよ」野口氏は慨嘆します。が、悲しい哉、泥鰌には耳が付いていません。ならば、「北京炙鴨」を食べながら我々が把握分析するしかないでしょう。それこそ牽強付会だと揶揄されようとも至言也。北京が本店の「全聚德」は、中国大使館の商務官から轉身した徐耀華氏が営む北京炙鴨の名店です。砂糖を塗した胸部の皮を先ずは。続いて、赤芯大根、青菜等と一緒に胡麻付き麵麩の間に挟んで。荷葉餅と呼ばれる皮で巻いた一般的な食べ方は、その後です。ヘンリー・キッシンジャー、周恩来の両氏が円卓外交を繰り広げた全聚德は、晚餐でも6800円から堪能可能。家族総出の記念日には奮発して1羽7980円の丸焼きを取り分けて貰うのも一興。